

「講義メモ」p.86 の練習問題の解答例

2010年1月15日

練習問題:

- (1) 企業の投資が増加すると, DD 曲線はどのような理由でどう変化するか.
- (2) アメリカ国民の消費意欲が高まる(経常収支曲線が上方にシフトする)と, DD 曲線はどのような理由でどう変化するか.
- (3) ドル建債券の利子率が低下すると, AA 曲線はどのような理由でどう変化するか.
- (4) 円=ドル・レート of 予想値が低下すると, AA 曲線はどのような理由でどう変化するか.

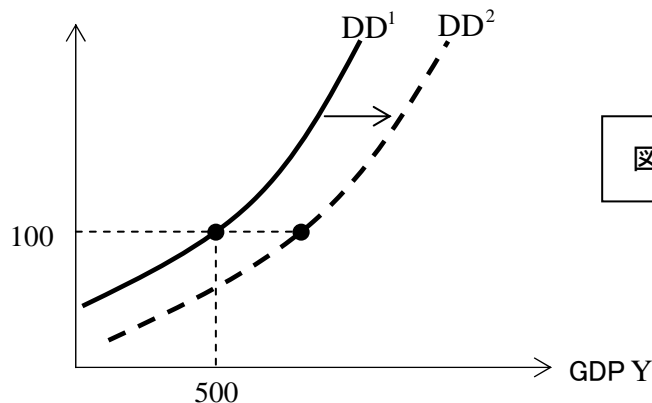
(1) 今, 仮に為替レート 1 ドル = 100 円, GDP 500 兆円で財市場が均衡するとしよう(つまり, $e=100, Y=500$ は DD 曲線上にあるということ). ここで企業の投資が増加すると, もはや $e=100, Y=500$ では財市場は均衡しない. 企業の需要が増えた分, 需要が供給を上回ってしまっている. したがって, 同じ円=ドル・レートの下で財の需給が一致するためには, GDP が増えて供給が増えなければならない. これは, 財の需給を一致させる組み合わせが全て右側に動くことを意味する. よって, DD 曲線は右側にシフトする.

おまけ: したがって, この場合均衡 GDP は増加することになる.

(2) 今, 仮に為替レート 1 ドル = 100 円, GDP 500 兆円で財市場が均衡するとしよう(つまり, $e=100, Y=500$ は DD 曲線上にあるということ). ここでアメリカ国民の消費意欲が高まると, アメリカ人の日本製品への需要も増加するので, もはや $e=100, Y=500$ では財市場は均衡しない. アメリカ人による需要が増えた分, 需要が供給を上回ってしまっている. したがって, 同じ円=ドル・レートの下で財の需給が一致するためには, GDP が増えて供給が増えなければならない. これは, 財の需給を一致させる組み合わせが全て右側に動くことを意味する. よって, DD 曲線は右側にシフトする.

おまけ: この場合も同様に, 均衡 GDP は増加することになる.

円=ドル・レート e

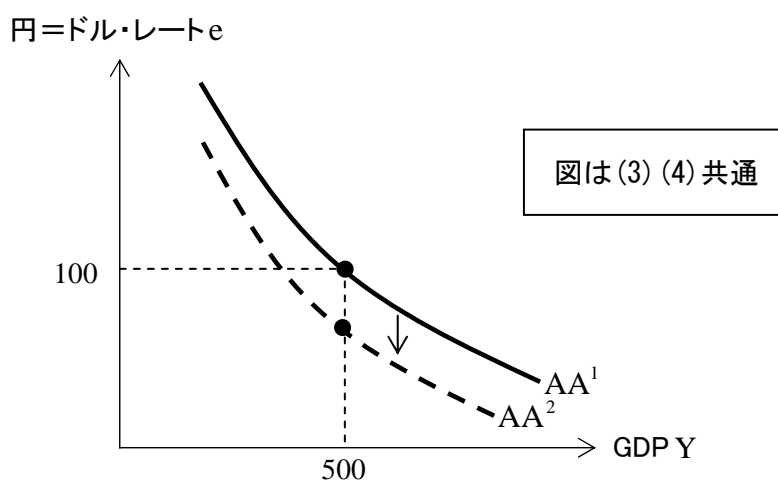


(3) 今、仮に為替レート1ドル=100円、GDP500兆円で貨幣市場・外国為替市場が均衡するでしょう(つまり、 $e=100, Y=500$ はAA曲線上にあるということ)。ここでドル建債券の利子率が低下すると、誰もがドル建債券を売って円建債券に乗り換えようとしてドルを売りに走るため、もはや $e=100, Y=500$ では外国為替市場は均衡しない。したがって、同じGDPの下でドルの需給が一致するためには、(今日の)ドルが減価して「今後ドル価値が上昇していく」という期待を抱かせ、ドル建債券の期待収益率を高めなければならない。これは、ドルの需給を一致させる組み合わせが全て下方に動くことを意味する。よって、AA曲線は下側(あるいは左側)にシフトする。

おまけ:したがって、この場合均衡GDPは減少することになる。

(4) 今、仮に為替レート1ドル=100円、GDP500兆円で貨幣市場・外国為替市場が均衡するでしょう(つまり、 $e=100, Y=500$ はAA曲線上にあるということ)。ここで円=ドル・レート of 予想値が低下すると、ドルの期待収益率が低下してしまうため、誰もがドル建債券を売って円建債券に乗り換えようとしてドルを売りに走り、もはや $e=100, Y=500$ では外国為替市場は均衡しない。したがって、同じGDPの下でドルの需給が一致するためには、「今後ドル価値が上昇していく」という期待を抱かせるのに十分なほど(今日の)ドルも減価して、ドル建債券の期待収益率を高めなければならない。これは、ドルの需給を一致させる組み合わせが全て下方に動くことを意味する。よって、AA曲線は下側(あるいは右側)にシフトする。

おまけ:この場合も均衡GDPは減少することになる。



(1)(2)は均衡GDPを増やす結果となる「正のショック」、(3)(4)は均衡GDPを減らす「負のショック」である。